

文学部・教育研究上の目的及び3つのポリシー

教育研究上の目的

文学部は、人文諸科学に関する学識を修めることを通し、広い識見と深い洞察力をもち、人間の生き方やあり方を考究し、多様な現代社会ならびに国際社会の諸問題に対応できる人材を養成することを目的とする。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

文学部は、卒業に必要な単位を取得し、以下に示すような能力を備えていると認められる学生に、卒業の認定を行い、学士（日本文学・中国文学・英米文学・教育学・書道学・歴史文化学）の学位を授与する。

1. 豊かな教養と専門的知識およびそれを活用する技能

(1) 人文諸科学に関する学識を修め、人間や世界に対する柔軟な想像力と洞察力を持つことができる。

2. 他者との共同による問題発見・解決能力と、それを支える思考・判断・表現力

(1) 自ら設定した課題について、人間文化・地域文化・歴史文化・言語文化のいずれかの学問領域の研究方法を用いて、考察することができる。

(2) 他者の声に耳を傾け、自分の考えを口頭表現や文章表現によって、的確に伝えることができる。

3. 自律的学習者として学び続け、社会に貢献する意欲と能力、社会の担い手としての使命感

(1) 各学科で学んだそれぞれの専門性を生かし、社会において真摯に課題に取り組み、解決しようと努力することができる。

(2) 国際社会に対する広い識見をもとに、周囲と力を合わせ、未来を創造していく過程に参加することができる。

4. 本学の建学の精神や本学の理念に対する理解

(1) 多文化の横断的学びを通して、人文科学分野で社会との共生を実感できる成果をもたらし、社会に発信する新しい文化の創造に資することができる。

教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

文学部は、卒業認定・学位授与方針に掲げる能力を修得させるために、以下のような内容、方法、評価の方針に基づき、教育課程を編成する。

1. 教育内容

(1) 最初に、多様な現代社会に対応できるように、学部・学科を越えた全学共通科目として自然・社会・人文諸科学の各科目を学ぶ。さらに基礎教育科目としての外国語科目・情報処理科目等、また、キャリア・ジェンダー・芸術（創作を含む）といった現代社会において必須とされる諸科目を学び、各専門科目への基礎を築く。

(2) 次に、日本文学科・中国文学科・英米文学科・教育学科・書道学科・歴史文化学科の6学科それぞれの基礎科目と専門科目を学ぶ。それらは各学科において体系的にカリキュラムが組まれている。

2. 教育方法

(1) 各学科においては、少人数制のゼミや実践研究における課題に取り組むことによって、資料・情報

の分析・読解能力、批評能力、自己表現能力、コミュニケーション能力、創造的実践能力の育成が
目指されている。

- (2) さらに各学科において、卒業論文や卒業制作、研究テーマへの総合的取り組みが、個別的指導のもとに行われる。

3. 評価方法

- (1) 学位授与方針で掲げられた能力の評価として、文学部における卒業要件達成状況、単位取得状況、GPA、外部客観テスト等の結果によって測定するものとする。
- (2) 4年間の総括的な学修成果として、複数教員による卒業論文等の評価を行う。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

文学部は、教育研究上の目的、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）に基づき、次のような要件を備えた受験生を各種選抜試験によって受け入れる。

1. 知識・技能

- (1) 入学前に日本文学・中国文学・英米文学・教育学・書道学・歴史文化学の6学科がそれぞれに定める、基礎的な知識・技能を修得している。

2. 思考力・判断力・表現力

- (1) 各学科が求める専門的能力を身につけられるよう努力する意欲がある。

3. 主体的に学習に取り組む態度

- (1) 国際社会に対する見識をもとに、周囲と力を合わせ、様々な課題に取り組む姿勢を有している。
- (2) 多様な現代社会に対応するための自然・社会・人文諸科学、外国語、情報処理、キャリア、ジェンダー、芸術等の科目を、積極的に幅広く学習する意欲を有している。

日本文学科・教育研究上の目的及び3つのポリシー

教育研究上の目的

文学部日本文学科は、日本文学に関する学識を修め、多様な現代社会に対応できる能力を有する人材の養成を目的とする。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

日本文学科は、卒業に必要な単位を取得し、以下に示すような能力を備えていると認められる学生に、卒業の認定を行い、学士（日本文学）の学位を授与する。

1. 豊かな教養と専門的知識およびそれを活用する技能

- (1) 日本の文学と言語・文化に関する基本的な知識を総合的・体系的に修得し、日本の文学や言語・文化の問題に関して専門的な知見を身につけている。
- (2) 日本の文学と日本語に関するさまざまな時代の文献や資料を的確に読解することができる。
- (3) 専門的な情報を集めるスキルを修得し、それを活用する能力を身につけている。
- (4) 日本語文法や文章表現法に関する基礎的な知識を修得し、口頭または文章で自身の考えを発表するために必要な語彙力・表現力を修得している。

2. 他者との共同による問題発見・解決能力と、それを支える思考・判断・表現力

- (1) 問題を発見し、解決するために必要な論理的思考力を身につけている。
- (2) 他者との議論を通して、自身の考えを深めようとする態度と能力を身につけている。
- (3) 専門的な問題に関する自身の考えを、一貫性・体系性を備えた文章で論理的に表現できる。
- (4) 各時代の文学作品に関する批評能力や鑑賞力を有している。または、各時代・各地方の言語の特質を理解できる。

3. 自律的学習者として学び続け、社会に貢献する意欲と能力、社会の担い手としての使命感

- (1) 他者と協同して、積極的に問題に取り組み、その解決をはかろうとする姿勢・意欲を身につけている。
- (2) 社会の現状に対して問題意識を持ち、その改善や向上に寄与しようとする姿勢・意欲を身につけている。

4. 本学の建学の精神や本学の理念に対する理解

- (1) 異文化や異質な他者を尊重し、理解しようとする態度・意欲を身につけている。

教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

日本文学科は、卒業認定・学位授与方針に掲げる能力を修得させるために、以下のような内容、方法、評価の方針に基づき、教育課程を編成する。

1. 教育内容

- (1) 日本の文学と言語・文化に関して、体系的・通史的な知識や素養を身につける。「日本文学史概説」「日本語学概説」など。
- (2) 古代から近現代にいたる各時代の文献や資料を読解する能力や、特定の主題に関する専門的な知識を身につける。「日本文学講読」「日本語学講読」、各分野の「特殊講義」など。

- (3) 4年間を一貫する少人数制の演習科目の履修を通して、問題発見・問題解決の能力、論理的思考力、文章表現力、口頭発表力、情報検索・情報分析の能力を養う。また、共通の課題に取り組むことを通して、自身と価値観や見解を異にする他者と向き合い、いかに協同するかを学んでいく。「日本文学基礎演習」「日本文学演習」、各分野の「演習」(ゼミナール)。
- (4) これまで修得した知識や技能、文学作品を批評・鑑賞する能力や言語の特質を理解する力をさらに発展・応用させつつ、卒業論文という成果にまとめ上げる。
- (5) 外国語科目や比較文学・文化関連の科目、全学共通科目の履修を通して、幅広い知識や素養を身につけるとともに、異文化に対する理解を深める。「比較文学・文化特殊講義」「比較文学・文化演習」「基礎教育科目」(外国語)など。

2. 教育方法

- (1) 知識の教授を目的とする教育内容に関しては、講義を中心とする授業形態をとるとともに、問題発見・問題解決の能力、技能修得などを目的とする教育内容に関しては、演習形式の授業形態をとる。
- (2) 基礎から発展へと体系的な学習が可能となるように、科目を配置する。
- (3) 初年次の日本文学基礎演習においては、入学以前の国語力の不足を補いつつ、文学研究の方法を学ぶ導入教育を行う。
- (4) 1年次から4年次まで一貫して少人数の演習科目を配置し、教員や受講生との討議を中心としたインタラクティブな教育を実践する。
- (5) 科目として「卒業論文」の時間を設け、主題や構想の検討などから文章添削に至るまで、教員(原則として3・4年連年演習の担当教員)と協議し、その指導の下に取り組んでいく。
- (6) 比較文学・文化の科目やゼミナールを用意するとともに、留学制度(協定校留学・奨学金派遣留学)の積極的な活用を推奨して、グローバルな視点から日本の文学と文化を見直すよう促す。

3. 評価方法

- (1) 学位授与方針で掲げられた能力に関しては、卒業要件達成状況、すなわち規定の単位数を取得したかどうかによって判定する。
- (2) 各科目に関しては、シラバスを通して成績評価基準を明示し、それに基づいて厳正な評価を行う。
- (3) GPA制度を導入して、客観的な評価基準を適用する。
- (4) 3・4年次連年の演習科目は、テーマや課題に対する受講者の取り組み方、問題発見・問題解決の能力、プレゼンテーション力などを総合的に評価する。
- (5) 卒業論文は、論文内容を中心に、それまでの勉学の成果や態度などを多角的に検討して評価する。

入学者受入れの方針 (アドミッション・ポリシー)

日本文学科は、教育研究上の目的、ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)、カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施方針)に基づき、次のような要件を備えた受験生を各種選抜試験によって受け入れる。

1. 知識・技能

- (1) 日本文学科の専門科目を学ぶ上で必要な基礎学力を有する者。特に、現代文と古文のテキストを読み込み、主体的な解釈を施すことができる知識と理解力を身につけている。

2. 思考力・判断力・表現力

- (1) 論理的な思考力を身につけ、自身の考えを的確に表現できると同時に、他者との対話の中で自分の主張を批判的に振り返り、さらに深めようとする事ができる。

3. 主体的に学習に取り組む態度

- (1) 古代から現代にいたる日本の文学や言語、文化に深い関心を持ち、体系的かつ専門的な知識の習得に積極的に取り組み、その学習を通じて高い教養と豊かな人間性をはぐくもうとする意欲がある。
- (2) 創造的思考とコミュニケーション能力を発揮し、他者と協力して積極的に問題に取り組み、その解決をはかろうとする意欲がある。

アドミッション・ポリシーと各入学選抜試験との関連について

入試方式	選抜方法	アドミッション・ポリシー		
		知識・技能	思考力・判断力 ・表現力	主体的に学習に 取り組む態度
		AP1	AP2	AP3
一般選抜 (大学入学共通テスト 利用 (前・中・後))	学力試験	●		
一般選抜 (全学部統一 (前・後))	学力試験 (国・英)	●		
一般選抜 (3教科)	学力試験 (国・英・選択)	●		
一般選抜 (英語民間試験活用 総合評価型)	外部試験スコア (英語)・事前課題論 文・書類審査	●	●	●
総合型選抜 (自己推薦 (併願可能型・専願型))	基礎確認テスト (古文)・口頭試問・ 自己推薦書	●	●	●
学校推薦型選抜 (指定校) (スポーツ)	書類審査	●		●
学校推薦型選抜 (公募制)	口頭試問・小論文・ 書類審査	●	●	●
特別選抜試験 (社会人・留学生)	口頭試問・書類審査	●	●	●

中国文学科・教育研究上の目的及び3つのポリシー

教育研究上の目的

文学部中国文学科は、中国古典学に関する学識を修め、中国文化圏に対する深い洞察力と国際感覚を有する人材の養成を目的とする。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

中国文学科は、卒業に必要な単位を取得し、以下に示すような能力を備えていると認められる学生に、卒業の認定を行い、学士（中国文学）の学位を授与する。

1. 豊かな教養と専門的知識およびそれを活用する技能

(1) 中国の伝統的な文学・歴史・哲学や思想を学ぶことによって、中国の文化や歴史の知識を身につけ、中国文化の影響を受けた日本の歴史や文化を改めて理解し、同時に日本語の中の漢字・漢語の知識や中国語の能力を修得し、それらを活用する技能を発揮することができる。

2. 他者との共同による問題発見・解決能力と、それを支える思考・判断・表現力

(1) 中国の伝統的な文学・歴史・哲学や思想の中から課題を発見し、その課題を深く考える洞察力や判断力を養い、論理的な文章としてまとめ、それを表現することができる。

3. 自律的学習者として学び続け、社会に貢献する意欲と能力、社会の担い手としての使命感

(1) 中国の伝統的な文学・歴史・哲学や思想を生涯にわたって学び続け、その修得した知識を社会の担い手としての使命感のもとに意欲的に活用していくことができる。

4. 本学の建学の精神や本学の理念に対する理解

(1) 本学の建学の精神（漢学の振興と東西文化の融合）を自覚しながら、学びの成果を国際的な多文化社会における諸問題の解決に応用できる。

教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

中国文学科は、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力を修得させるために、以下のような内容、方法、評価の方針に基づき、教育課程を編成する。

1. 教育内容

(1) 初年次には必修科目「漢文入門」において文献読解に必要なスキルを学ぶ。

(2) 初年次には必修科目「中国哲学基礎演習1（論語）」、「中国文学基礎演習1（唐詩）」、「中国語学基礎演習1・2」、「中国語入門」において読解力、基礎知識、語学力を養成する。

(3) 2年次には必修科目「中国哲学基礎演習2（孟子）」、「中国文学基礎演習2（十八史略）」、「中国語学基礎演習3・4」、「中国語学基礎演習」において読解力、基礎知識、語学力をさらに伸ばす。

(4) 3年次以降は選択科目で文学、哲学、歴史に関する分野を広く学ぶことで理解を深めるとともに、文学、哲学、歴史から所属するゼミを一つ選択し、自ら設定したテーマを調査し考察を加える。

2. 教育方法

(1) 1・2年次の必修科目ではクラスに分けて履修者数の偏りを無くし、主体的な学びを促す。

(2) 1・2年次の必修科目で文学、哲学、歴史の文献を読み、それぞれの文献の特徴を理解するとともに広い知識と各分野の読解力を身につける。

- (3) 3年次以降の特別演習、卒論指導では少人数ゼミの履修を必修化し、課題の設定から卒業論文作成まで指導する。

3. 評価方法

- (1) 学位授与方針で掲げられた能力の評価として、卒業要件達成状況、単位取得状況、GPAにより測定する。
- (2) 4年間の総括的学修成果として、口頭試問を伴う卒業論文の評価により測定する。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

中国文学科は、教育研究上の目的、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）に基づき、次のような要件を備えた受験生を各種選抜試験によって受け入れる。

1. 知識・技能

- (1) 入学後の修学に必要な基礎学力を有しているもの。

2. 思考力・判断力・表現力

- (1) 物事を論理的に考察・判断し、自らの考えを的確な言葉で表現できる。

3. 主体的に学習に取り組む態度

- (1) 中国文化及びその日本への影響に興味を持ち、他者と協働して積極的に学ぶ意欲がある。

アドミッション・ポリシーと各入学選抜試験との関連について

入試方式	選抜方法	アドミッション・ポリシー		
		知識・技能	思考力・判断力 ・表現力	主体的に学習に 取り組む態度
		AP1	AP2	AP3
一般選抜 (大学入学共通テスト 利用入試 (前・中・後))	共通テスト	●		
一般選抜 (全学部統一入試 (前・後))	学力試験 (国・英)	●		
一般選抜 (3教科)	学力試験 (国・英・選択)	●		
一般選抜 (英語民間試験活用 総合評価入試)	英語学部試験	●		
総合型選抜 (自己推薦 (併願可能型・専願型))	自己推薦書		●	●
	調査書	●		
	学力試験 A方式	●		
	小論文 B方式	●	●	●
	個人面接	●	●	●
学校推薦型選抜 (指定校)(スポーツ)(一高)	調査書	●		
	事前課題	●	●	●
	個人面接		●	●
学校推薦型選抜 (公募制)	調査書	●		
	学力試験 A方式	●		
	学力試験 (実技) B方式	●	●	●
	個人面接		●	●
特別選抜試験 (社会人・留学生)	調査書	●		
	個人面接		●	●

英米文学科・教育研究上の目的及び3つのポリシー

教育研究上の目的

文学部英米文学科は、英語圏の文学・語学・文化に関する学識を修め、国際語としての英語の基盤の上に立った広い見識を持つ人材の養成を目的とする。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

英米文学科は、卒業に必要な単位を取得し、以下に示すような能力を備えていると認められる学生に、卒業の認定を行い、学士（英米文学）の学位を授与する。

1. 豊かな教養と専門的知識およびそれを活用する技能

- (1) 英語の文法、語彙などに関する十分な知識を習得している。
- (2) 英語をコミュニケーションの手段（読む・聞く・書く・話す）として運用する能力を有している。
- (3) 英米文学・文化に関する十分な知識を習得している。
- (4) 英語学に関する十分な知識を習得している。

2. 他者との共同による問題発見・解決能力と、それを支える思考・判断・表現力

- (1) 英米文学の作品（小説・詩・演劇など）を読み解き、その学修成果を他者に伝達できる。
- (2) 英語という言語の特質や仕組みを理解し、その学修成果を他者に伝達できる。
- (3) 英語圏文化の特質を理解し、その学修成果を他者に伝達できる。
- (4) 文献を批判的に読み、自ら発見した問題を解決するために論理的に議論できる。

3. 自律的学習者として学び続け、社会に貢献する意欲と能力、社会の担い手としての使命感

- (1) 英語圏の文学・文化および英語学の研究を通して、現代世界の諸問題への理解を深め、その解決に貢献する意思を有している。

4. 本学の建学の精神や本学の理念に対する理解

- (1) 文化および言語の多様性への深い理解を持ち、多文化社会で活躍できる。

教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

英米文学科は、卒業認定・学位授与方針に掲げる能力を修得させるために、以下のような内容、方法、評価の方針に基づき、教育課程を編成する。

1. 教育内容

- (1) 英語の実用的な運用能力を高め、国際的な場面で様々な文化的背景の人々とも、主体性・協調性を持って交流することのできる国際感覚を培う。「Freshman Seminar」「Speaking/Writing/Reading English」「英語文化コミュニケーション演習」など。
- (2) 英米を中心とする英語圏の文学・文化・歴史・社会への知識を深め、その特徴と多様性の理解を目指す。英米の小説・詩・演劇・児童文学関連科目、「英米児童文学を味わう」「英文学入門」「米文学入門」「イギリス文化論」「アメリカ文化論」など。
- (3) 英語の様々な側面をより複眼的、多面的にとらえ、その成り立ちと機能をより正確に理解できるようにする。「英語学入門」「英語の音声」「英語の歴史」「言語のしくみ」「英文法論」など。
- (4) 現代社会における文学・文化の価値の展開と発展について理解することで、東洋文化と西洋文化と

の差異や民族間における文化の差異を越えた交流を行うための知見を深める。「東西文化交流論」「比較文化論演習」など。

- (5) 英語・英語圏文学・文化に関し、他者の様々な意見を参照し、それを基礎として、自分自身の意見や思考を論理的に構築する力を養う。「ゼミナール」「卒業論文」など。
- (6) 英語以外のヨーロッパ諸言語また他の地域の外国語を身に付ける。「フランス語基礎」「ドイツ語基礎」「スペイン語基礎」「中国語1」など。
- (7) 英米文学、英語学、英語圏文化以外の人文学、また社会科学、自然科学に触れることにより、大学生として当然身に付けておかななくてはならない教養と知識および知的好奇心を養う。それと同時に、他分野と専門分野の関連性を見出すことによってさらに深い洞察力を身に付ける。「哲学 AB」「芸術学 AB」「社会学 AB」「経済学 AB」「数学 AB」「生物学 AB」など。

2. 教育方法

- (1) 初年次教育においては、少人数のゼミ形式の授業における実践を通じて、発表の仕方、発表資料の書き方、レポートの書き方、ノートの取り方、図書館活用方法など、大学での学びの基礎を身に付ける。
- (2) 2年次において「英文学」「米文学」「英語学」を講義形式で導入し、専門科目に関する広範な知識を身に付ける。
- (3) 1, 2年次の英米の小説・詩・演劇・児童文学関連科目では、英米文学の様々なジャンルの具体的作品に原文で触れながら、ディスカッション形式で文学作品の持つ内容、形式について学ぶ。
- (4) 3年次には英文学、米文学、英語学、英語圏文化の分野に関する少人数制のゼミナールを、学生同士の討論また学生による発表を含むアクティブ・ラーニングを取り入れた形式で運営する。
- (5) 4年次の卒業論文では、教員と卒論生との間の一対一指導、およびゼミ形式で、テーマの確定、資料の分析、論文執筆を進める。

3. 評価方法

- (1) ディプロマ・ポリシーで掲げられた能力の評価として、英米文学科における単位取得状況、卒業要件達成状況、卒業論文の内容などによって測定するものとする。
- (2) 短期・長期留学を奨励し、現地での語学研修結果、単位取得状況を当該学生の留学地での学修成果として評価する。
- (3) 語学検定試験の受験を奨励し、その試験結果を当該学生の総合的学修成果として考慮する。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

英米文学科は、教育研究上の目的、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）に基づき、次のような要件を備えた受験生を各種選抜試験によって受け入れる。

1. 知識・技能

- (1) 英語圏の言語、文学、文化を学ぶ上で、十分な基礎学力を身につけている。
- (2) 高校で培った基礎学力に基づき、英語力や知識、教養を深めることができる。

2. 思考力・判断力・表現力

- (1) 英語圏の言語、文学、文化が現代社会において持ちうる重要性を発見し、洞察力を深めることができる。

3. 主体的に学習に取り組む態度

(1) 英米文学科で学ぶ英語力や知識、教養を実践的に活用する意欲がある。

アドミッション・ポリシーと各入学選抜試験との関連について

入試方式	選抜方法	アドミッション・ポリシー		
		知識・技能	思考力・判断力 ・表現力	主体的に学習に 取り組む態度
		AP1	AP2	AP3
一般選抜 (大学入学共通テスト 利用入試 (前・中・後))	大学入学 共通テスト	●		
一般選抜 (全学部統一入試 (前・後))	個別学力試験 (国・英 [独自・英 語民間])	●		
一般選抜 (3教科)	個別学力試験 (国・英 [独自・英 語民間]・選択)	●		
一般選抜 (英語民間試験活用 総合評価型)	外部試験スコア (英)	●		
	事前課題論文	●	●	●
総合型選抜 (自己推薦 (併願可能型・専願型))	自己推薦書		●	●
	口頭試問	●	●	●
学校推薦型選抜 (指定校) (スポーツ)	調査書	●		●
学校推薦型選抜 (公募制)	調査書	●		●
	小論文	●	●	●
	口頭試問	●	●	●
特別選抜試験 (社会人)	個人面接	●	●	●
	小論文	●	●	●
特別選抜試験 (留学生)	個人面接	●	●	●
	小論文	●	●	●
	英語試験	●	●	●

教育学科・教育研究上の目的及び3つのポリシー

教育研究上の目的

文学部教育学科は、教育学に関する学識を修め、教育に関する知識・技能について、理論的実践的に優れた能力を有する人材の養成を目的とする。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

教育学科は、卒業に必要な単位を取得し、以下に示すような能力を備えていると認められる学生に、卒業の認定を行い、学士(教育学)の学位を授与する。

1. 豊かな教養と専門的知識およびそれを活用する技能

- (1) 本学科の教育学研究の柱である教育学・心理学・福祉学・芸術学の領域に関して深い学識と適確な技能を修得している。
- (2) 幼稚園・小学校の教員、保育士、その他の教育者・発達援助者として、子どもを含む人間が学び発達していく理論および実践活動について、専門的な識見を修得している。
- (3) 教育・発達援助の専門家として、困難や課題を抱えている対象に対して、条件・状況に応じた適確・創造的な学習指導・生活指導や養育活動を組み立てる実践的スキルを習得している。

2. 他者との共同による問題発見・解決能力と、それを支える思考・判断・表現力

- (1) 教育の専門家として、また現代社会の市民として、教育的課題・社会的課題の解決のために、情報リテラシー・柔軟な発想力・豊かな感性を身につけ、他者と協同で問題解決のための活動ができる。
- (2) 自らの学習・探求した成果を、報告書や論文、あるいは芸術作品としての的確に表現し、他者・社会と共有できる能力を身につけている。

3. 自律的学習者として学び続け、社会に貢献する意欲と能力、社会の担い手としての使命感

- (1) 子どもを含む人間の多様な在り方・生き方に関わる諸問題について、常に関心をもち、主体的に取り組むことができる。

4. 本学の建学の精神や本学の理念に対する理解

- (1) 多様な価値観・文化を持つ人々と協同で問題を探求し活動することができる。
- (2) 日本社会や国際社会において生じている多文化共生に関する諸問題について、広く関心を持ち、学問的に探求することができる。

教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

教育学科は、卒業認定・学位授与方針に掲げる能力を修得させるために、以下のような内容、方法、評価の方針に基づき、教育課程を編成する。

1. 教育内容

- (1) 1, 2 年次には、広く深い教養を身につけるために、学部・学科を越えた「全学共通科目」から自然・社会・人文諸科学の各科目、「基礎教育科目」から外国語科目・情報処理科目等を学ぶ。さらに教育学研究の基礎力を養い問題意識を耕すために「教育学科入門科目」としての「基礎演習」を履修する。
- (2) 1 年次から 4 年次を通じて「教育学科専門基礎科目」、「教育学科専門科目」、「教育学科演習科目」

を学ぶ。それらは教育学・心理学・福祉学・芸術学の領域を柱として、多様性と系統性を重視して教育課程が組まれている。とりわけ、3, 4年次で履修する教育学演習（ゼミナール）では、少人数の学習集団の中で専門的テーマを深く研究していく。

- (3) 1年次から4年次を通じて、幼稚園・小学校の教員免許、保育士資格が取得できる教育課程が用意されているが、教育学の知見に裏づけられた免許・資格となるよう、理論と実践のバランスを考慮した教育課程が組まれている。

2. 教育方法

- (1) 理論的な学びが実践に結びつけられるように、ディスカッションやグループワーク、実験、校外フィールドワークを含む多様な授業形態を取り入れ、教育や社会の現代的諸課題を主体的・協同的・創造的に探究することをめざす。
- (2) 全員が教育学演習（ゼミナール）を履修することによって、集団的研究・実践活動を経験し、その成果をゼミ論文や卒業論文として発表する。
- (3) 1年次から4年次を通じて、問題関心や進路に応じた個別的指導を重視する。

3. 評価方法

- (1) 学位授与方針で掲げられた能力の評価として、教育学科における卒業要件達成状況、単位取得状況、GPA等の結果によって測定するものとする。
- (2) 4年間の総括的な学修成果として、複数教員による卒業論文等の評価を行う。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

教育学科は、教育研究上の目的、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）に基づき、次のような要件を備えた受験生を各種選抜試験によって受け入れる。

1. 知識・技能

- (1) 本学科の教育学研究の柱である教育学・心理学・福祉学・芸術学を学ぶ上で十分な基礎知識・技能を修得している。

2. 思考力・判断力・表現力

- (1) 教育的課題・社会的課題に関して多面的かつ論理的に考察することができる。
- (2) 自らの学習・探求した成果、およびそれに基づく自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。

3. 主体的に学習に取り組む態度

- (1) 幼稚園、小学校の教師や保育士、その他の教育・養育の専門家を目指す意欲をもっている。また、教員・保育士・福祉職志望ではなくても教育学や心理学・福祉学・芸術学について研究する意欲を持っている。そして何より人間が学び育つこと、それを援助する営みについて関心・問題意識を持っている。
- (2) 幼稚園、小学校教師、保育士、その他の教育・養育の専門家として確かな力を持って活躍できる実践的な能力を身につけるための学習活動に積極的である。また、多様な他者と協力しあって活動することに積極的である。

アドミッション・ポリシーと各入学選抜試験との関連について

入試方式	選抜方法	アドミッション・ポリシー		
		知識・技能	思考力・判断力 ・表現力	主体的に学習に 取り組む態度
		AP1	AP2	AP3
一般選抜 (大学入学共通テスト 利用入試 (前・中・後))	大学入学共通テスト	●		
一般選抜 (全学部統一入試 (前・後))	個別学力試験 (国・英 [本学・民間])	●		
一般選抜 (3教科)	個別学力試験 (国・英 [本学・民間]・選択)	●		
一般選抜 (英語民間試験活用 総合評価入試)	英語外部試験スコア 事前課題 (論文)	●	●	
総合型選抜 (自己推薦 専願型)	自己推薦書 小論文 口頭試問		●	●
学校推薦型選抜 (指定校)	書類審査 事前課題論文	●	●	●
学校推薦型選抜 (スポーツ)	書類審査	●	●	●
学校推薦型選抜 (公募制)	書類審査 小論文 口頭試問	●	●	●
特別選抜試験 (社会人・留学生)	書類審査 小論文 口頭試問	●	●	●

書道学科・教育研究上の目的及び3つのポリシー

教育研究上の目的

文学部書道学科は、書道学に関する学識を修め、書表現および書学に秀でた人材の養成を目的とする。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

書道学科は、卒業に必要な単位を取得し、以下に示すような能力を備えていると認められる学生に、卒業の認定を行い、学士（書道学）の学位を授与する。

1. 豊かな教養と専門的知識およびそれを活用する技能

- (1) 漢字・仮名の文字文化を、周辺の諸領域とともに理解し考察することができる。
- (2) 書作と書学の両面においてバランスのとれた基礎力と応用力を身につけている。
- (3) 豊かで幅広い教養と高い倫理性を身につけている。

2. 他者との共同による問題発見・解決能力と、それを支える思考・判断・表現力

- (1) 芸術表現としての「書」の歴史を踏まえて、高い表現技法と鑑賞する力を身につけている。
- (2) 書の素晴らしさを感じ取り、その感動を人に伝え指導することができる。

3. 自律的学習者として学び続け、社会に貢献する意欲と能力、社会の担い手としての使命感

- (1) 現代社会における「書」の文化的役割や機能を主体的に担い、推進する能力を身につけている。

4. 本学の建学の精神や本学の理念に対する理解

- (1) 建学の精神である漢学の振興に基づき、グローバルな視野で異文化を理解し、多文化共生社会を推進する能力を身につけている。

教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

書道学科は、卒業認定・学位授与方針に掲げる能力を修得させるために、以下のような内容、方法、評価の方針に基づき、教育課程を編成する。

1. 教育内容

- (1) 書道学科は、書作と書学からなる書道学を体系的に学ぶために書作と書学の科目の連携を図り、その基礎力から応用力までを身につける。
- (2) 外国語科目においては、1年次の必修科目「中国語学基礎演習1・2」と2年次の必修科目「中国語学基礎演習3・4」の履修を通して、書道と関連の深い中国語学を習得し、語学力の養成を図るとともに異文化に対する理解を深める。
- (3) 全学共通科目においては、「文学A・B」「歴史学A・B」「情報科学A・B」といった科目の履修を通して、人文・社会・自然諸科学にわたる幅広い教養の形成を図る。
- (4) 初年次においては、必修科目である「書道学基礎演習」の履修を通して、書道学の学修に必要な基礎力を養成する。
- (5) 必修科目群では、初年次において「楷書法1（書写を含む）」「行草書法1（書写を含む）」「仮名書法1（書写を含む）」といった科目の履修を通して、漢字・仮名等の書表現の基礎を修得する。また「日本書道史通論」「中国書道史通論」を履修することにより書道史の基礎力を養成する。さらに2年次では「書学基礎研究1・2」といった科目を履修することを通して書学の基礎を幅広く修得する。
- (6) 選択科目群では、2年次において「漢字仮名交じりの書法1」「篆刻法」といった科目の履修を通し

て漢字仮名交じり・篆刻等の書表現をも修得する。また2年次の「書跡文化財学概説」や3年次の「書論講読」等により書論・書跡等の研究能力を育成する。

- (7) 選択科目群では、「書道美学論」「中国美術史」「日本美術史」「日本文学史概説 A・B」といった科目の履修を通して美学・美術史や文学等の学際領域も広く視野に入れて、現代社会における書文化の機能とあり方を考察できるようにする。
- (8) 選択科目群では、「日本文化実地演習」といった科目の履修を通して、国内の書跡作品を実際に観察することの意義と鑑賞力を養成する。さらに「漢字文化実地演習」の履修を通して、中国や台湾での書道の体験学習や古今の書跡の鑑賞により異文化に対する理解を深める。
- (9) 各学生が自らの希望・選択する分野でより専門的履修が行えるように、3年次よりすべての学生が書作ゼミと書学ゼミのダブルゼミを受講する他校に類を見ない教育課程を整備している。
- (10) 4学年においては、それまでに修得した能力を発展・応用させて「卒業論文」と「卒業制作」としてまとめる。

2. 教育方法

- (1) 主体的な学びを促進するために、専門科目においては、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法を採用する。
- (2) 3年次より書作ゼミ1、書学ゼミ1の2つのゼミの履修を必修化し、インタラクティブな教育を実施する。
- (3) 2年次では国内、3年次では海外の体験学習を含む授業の受講を積極的に推奨している。
- (4) 1年次と2年次には学内ギャラリーで「秋季展」を開催。また1年次はこれに加えて「新入生歓迎展」を開催し、段階的な学修成果の発表の場を設けている。
- (5) 学外の美術館・ギャラリーで3年次には「ゼミ制作展」、4年次には「卒業制作展」を開催し、学修成果の発表の場を設けるとともに展覧会運営のプロセスを学ぶ機会を取り入れている。

3. 評価方法

- (1) 学位授与方針で掲げられた能力の評価として、文学部における卒業要件達成状況、単位取得状況、GPA等の結果によって測定するものとする。
- (2) 学位授与方針で掲げられた形成的評価として、学期毎に成績不振者に対して教員による個人的面談を実施する。
- (3) 4年間の総括的な学修成果として、複数教員による卒業論文・卒業制作の評価を行う。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

書道学科は、教育研究上の目的、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）に基づき、次のような要件を備えた受験生を各種選抜試験によって受け入れる。

1. 知識・技能

- (1) 書作を専門的に学ぶのに必要な基礎的な技法を身につけている。
- (2) 書学を専門的に学ぶのに必要な基礎学力を身につけている。

2. 思考力・判断力・表現力

- (1) 倫理的な思考力を身につけている。
- (2) 修得した技法、学力、知識を多角的に表現することができる。

3. 主体的に学習に取り組む態度

- (1) 自ら主体的に学ぶとともに、他者とも積極的にかかわることができる。
- (2) 書が大好きで、強い意志と高い目標を持って努力することができる。
- (3) 向学心の旺盛な人で、芸術文化に対する愛好心を身につけている。

アドミッション・ポリシーと各入学選抜試験との関連について

入試方式	選抜方法	アドミッション・ポリシー		
		知識・技能	思考力・判断力 ・表現力	主体的に学習に 取り組む態度
		AP1	AP2	AP3
一般選抜 (大学入学共通テスト 利用入試 (前・中・後))	大学入学共通テスト	●		
一般選抜 (全学部統一入試 (前・後))	学力試験 (国・英)	●		
一般選抜 (3 教科)	学力試験 (国・英・選択)	●		
総合型選抜 (自己推薦 (併願可能型・専願型))	学力試験(書道実技)	●		
	小論文		●	●
	自己推薦書		●	●
	個人面接		●	●
学校推薦型選抜 (指定校)	調査書	●		
	事前課題 (作品・小論文)		●	●
学校推薦型選抜 (スポーツ)	調査書	●		
学校推薦型選抜 (公募制)	調査書	●		
	学力試験(書道実技)	●		
	小論文		●	●
	個人面接		●	●
特別選抜試験 (社会人・留学生)	調査書	●		
	学力試験(書道実技)	●		
	小論文		●	●
	個人面接		●	●

歴史文化学科・教育研究上の目的及び3つのポリシー

教育研究上の目的

文学部歴史文化学科は、歴史・文化に関する学識を修め、世界の中の日本を自覚し、多様な現代社会に対応できる能力を有する人材の養成を目的とする。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

歴史文化学科は、卒業に必要な単位を取得し、以下に示すような能力を備えていると認められる学生に、卒業の認定を行い、学士（歴史文化学）の学位を授与する。

1. 知識・技能

(1) 人文分野を始めとして、社会・自然分野に及ぶ確かな知性と鋭い感性を備えた、豊かな人間性を陶冶することができる。

2. 思考力・判断力・表現力

(1) 世界、日本、地域の歴史・文化に関する豊富な学識を修め、歴史的思考力を縦横に駆使して、それを行動の拠り所とすることができる。

(2) 国際化が進む社会において、異なる立場にある者とも相互理解の上に立って、十分なコミュニケーションを取りながら、協働することができる。

3. 主体的に学習に取り組む態度

(1) 現代の多様な課題の発見・解決に主体的に取り組み、歴史文化学科で修得した専門性を総合して、新たな価値の創造に柔軟に活かすことができる。

教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

歴史文化学科は、卒業認定・学位授与方針に掲げる能力を修得させるために、以下のような内容、方法、評価の方針に基づき、教育課程を編成する。

1. 教育内容

(1) まず、1年次の専門必修科目である「歴史文化学入門A・B」において、歴史文化学全般の導入教育を行い、1年次からの基礎的訓練の動機づけを図る。同時に、専門基礎科目で日本史、東西文化、観光歴史学の各コースの概要を周知し、専門支援科目で各コースの専門教育を支援する専門的な言語運用能力の養成を図ることで、2年次からのコース分けに備える。

(2) さらに、1年次から2年次にかけては、語学科目を中心とした基礎教育科目で、国際社会に通用する国際感覚を身につけるとともに、専門教育の基礎となる多様な一般的学力を身につける。また、多様な現代社会の諸問題に対応できるように、学科の枠を超えた全学共通科目で、人文・社会・自然諸科学にわたる幅広い教養の形成を図る。

(3) そして、2年次には、専門教育として1年次に続いて専門支援科目の学修を深めると同時に、専門必修科目の「基礎演習」において、それぞれの関心に応じた演習科目を配当する。講義科目としても、1年次からの専門基礎科目に加え、コース分けが行われた後なので、学生が選択したコースに関する様々な専門的領域の研究成果を提示する研究科目を用意する。

(4) 3年次では、2年次までの基礎的教育の学習成果を発展させて、専門科目を学ぶ。なかでも、専門

必修科目の「専門演習」で、各コースそれぞれの専門性に応じた演習が行われる。このように、主体性、創造性や協働性を養うために演習を重視する本学科の立場から、3・4年次には他にも、各コース独自の演習・実習科目を提供する。

- (5) 3・4年次では、各コースの発展的内容を持つ多様な講義科目を設けて、学生の専門領域の学識を深めるとともに、他領域との交流・比較も行うことで、アナロジーやシナジー効果などによる、さらなる発展を図る。このように、本学科は2年次という比較的早い時期に各専門コースに分かれるという特徴を持つが、同時に3・4年次にいたるまで一貫して、多数の他コースの授業も受講できるという特徴もあわせ持っている。
- (6) 4年次では、4年間の学問研究の集大成として、「卒業研究」が行われる。各自が指導教員のもとで、自分のコースの学問領域の中で、さらに特定の専門領域を選択して、これまでの学習成果を自らが選んだ具体的な研究テーマの深化のために活用していく。

2. 教育方法

- (1) 知識の理解を目的とする教育内容については、講義形式を中心とした授業形態を採るとともに、意欲・関心、課題発見・解決、及び技能の習得を目的とする教育内容については、演習形式による授業形態を採ることとし、また理論的知識や能力を実践に応用する能力を身につけることを目的とする教育内容については、実習形式による授業形態を採用する。
- (2) 基礎から発展へと体系的な学修が可能となるようにするとともに、特に専門教育においては、専門分野の教育内容ごとに、知識、技能、応用といった授業の内容と科目間の関係や履修の順序に留意する。

3. 評価方法

- (1) あらかじめ各授業における到達目標やその目標を達成するための授業方法、計画等を明示したうえで、成績評価基準や卒業認定基準を提示し、これに基づいて厳格な評価を行う。
- (2) GPA 制度を導入して、客観的な評価基準を適用する。
- (3) 4年間の総括的な学修成果として、卒業研究の評価を行う。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

歴史文化学科は、教育研究上の目的、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針に基づき、以下の能力を備えた受験生を各種選抜試験によって受け入れる。

1. 知識・技能

- (1) 歴史文化学科のカリキュラムはもとより、大学教育それ自体に対応できる知識（基礎学力）を有するとともに、入学後も学修を継続していくための基本的な技能を習得している。

2. 思考力・判断力・表現力

- (1) 歴史に対する強い興味と関心を抱き、社会に対する認識を深め、これを卒業後に社会人として具体的に活かしていくための方策を考えていくことができる。

3. 主体的に学習に取り組む態度

- (1) 大学生活を通じて、2に掲げた内容を実現していくため、自ら積極的に他者とかわりながら、柔軟かつ積極的にこれに取り組むことができる。

アドミッション・ポリシーと各入学選抜試験との関連について

入試方式	選抜方法	アドミッション・ポリシー		
		知識・技能	思考力・判断力 ・表現力	主体的に学習に 取り組む態度
		AP1	AP2	AP3
一般選抜 (大学入学共通テスト 利用入試(前・中・後))	学力試験	●		
一般選抜 (全学部統一入試(前・後))	学力試験 (国・英)	●		
一般選抜(3教科)	学力試験 (国・英・選択)	●		
一般選抜 (英語民間試験活用 総合評価型)	英語外部試験スコア、 事前課題論文	●	●	●
総合型選抜 (自己推薦 (併願可能型・専願型))	自己推薦書、小論文、 個人面接		●	●
学校推薦型選抜 (指定校)(スポーツ)	書類審査、 事前課題論文	●		
学校推薦型選抜(公募制)	書類審査、小論文、 個人面接	●	●	●
特別選抜試験 (社会人・留学生)	書類審査、個人面接	●	●	●